

令和7年度 学校マネジメントシート 年度末反省

学校名(三重県立飯南高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成する学校 ○高校生が地域に関わり、地域とともに活動する学校 	
(2)	育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○学習、部活動、学校行事に積極的に取り組み、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を身につけた生徒 ○地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒
	ありたい 教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒を第一に考え、「生きる力」の育成のために、協し、助け合いながら、生徒とともに成長し続ける教職員 ○生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧に粘り強く関わることをとおして、優しい心や豊かな人間性を育むなど、心の成長を促す教職員 ○教科指導の改善や探究活動、キャリア教育に積極的に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒>安全・安心で充実した高校生活を送り、「生きる力」を身につけ、自己の進路希望を実現したい。 <保護者等>キャリア教育を推進し、社会に適応し活躍できるようにしてほしい。 <地域>地域の高校として、地域と連携したキャリア教育をとおして生徒を育て、地域とともに活動する人材を育成してほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 授業、学校行事の様子など、学校の情報を発信してほしい。 <中学校> 選抜に係る情報についての相互理解を深めてほしい。 <地域社会> 地域とともに活動する人材の育成のため、行事における協力、交流を進めてほしい。	<家庭> 教育方針を理解のうえ、家庭でできる挨拶、コミュニケーションの実践を進めてほしい。 <中学校> 地域の高校としての現状を理解し、連携の強化を引き続き積極的に進めてほしい。 <地域社会> 地域の高校として、地域で学ぶ機会を増やすとともに、地域における就業機会が得られるよう支援してほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	①【成果指標】「飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒の割合を90%以上とする。」について 生徒満足度 95%(保護者満足度 94%)と、高い数字である。 ②【成果指標】「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」が果たたと答えた生徒の割合を、それぞれの力について 75%以上とする。」について 「対話力」95%、「追究力」94%、「創造力」93%、「発信力」88%と、達成できている。 ③学校運営協議会発案・参画の放課後「学びの場」(塾)を 10 回以上開催でき、参加生徒たちは熱心に学んでいる。今後も個に応じた学習支援を継続していく必要がある。	

(4)現状と課題	教育活動	① 年間の学びの集大成として、生徒は「いいなんゼミ」発表会において、自ら取り組んだ研究内容のプレゼンテーションを行っている。今後はより多くの生徒にとって、「自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題」に取り組めるよう発展させていくとともに、1・2 年次から探究のスキルを身につけられるよう学習計画を整備する必要がある。 ② 「生徒が主体的に学ぶ授業」を一層進め、改善を進めるため、教職員間での「学び合い」の機会を継続的に設けていく必要がある。
	学校運営等	① 本校がコミュニティ・スクールとなり4年目を迎え、地域住民や中学校等、多様な関係者と連携・協働し、生徒を育てる仕組みを検討していく必要がある。 ② 時間外労働が、特定の教職員で特に多い傾向である。特定の教職員に業務が集中しないように工夫していくとともに、休暇の取得も呼びかけていく。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	① 変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」を育成するため、地域と協働し「地域を学び場とした探究活動」を推進 ② 生徒が自ら学ぶ姿勢を育むとともに、学力の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進 ③ 生徒の自己肯定感を育み、自他の生命及び人権尊重の精神を育成するための人権教育を推進
学校運営等	① コミュニティ・スクールとして、生徒を中心とした教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進 ② これからの社会で求められる力を育成できるよう、授業力向上の取組を推進 ③ 教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得られるよう、総勤務時間の縮減を推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	総合学科の学習活動を主体的、積極的、継続的かつ誠実に行える生徒
---------------------------------	---------------------------------

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)生徒が自ら学ぶ力を身につけるため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業に取り組むとともに、より効果を上げるため ICT の活用を推進する。 (2)基礎・基本の学力定着のための SHR 学習(学びの時間)を行うとともに、「学びの基礎診断」を実施し、生徒の学力の定着と向上を図る。 【活動指標】生徒、保護者対象の満足度調査、授業参観時の保護者アンケートを、各1回ずつ実施する。 【成果指標】飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒の割合を90%以上とする。	1月満足度調査実施 (生徒171名・保護者94名の回答2/16現在) 5月及び9、10月授業公開時にアンケート実施 (保護者43名の回答) 満足度(あてはまる・ややあてはまるの合計) 89.1% 未達成	※

生徒指導の充実	<p>(1)基本的な生活習慣の確立をめざし、挨拶の大切さを理解させるとともに、頭髪・服装指導を通じて身だしなみを整える。</p> <p>(2)学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見・対応に努める。</p> <p>【活動指標】4月、11月をいじめ防止月間とし、防止に向けた生徒の主体的な取組を実施する。</p> <p>【成果指標】年間遅刻者数前年度比5%減</p>	<p>4月、11月生徒会がポスタ一等で啓発を実施</p> <p>年間遅刻者数(1,2学期) R6:660 ⇒ R7:617 6,5%減 <input checked="" type="checkbox"/>達成</p>	※
キャリア教育の充実	<p>(1)「地域を学び場とした探究活動」を推進し、総合学科の特色である1年次の「産業社会と人間」、2年次の「キャリアデザイン」、3年次の「いいなんゼミ」等を通じて、生徒の多様な能力・適性に応じた活動を推進し、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を向上させる。</p> <p>(2)中高連携や高大連携、社会人講師による授業など、多様で魅力的な学びの場を提供する。特に、各系列の授業において地域と連携した学びの一層の充実を図る。(トークフォークダンス、社会福祉協議会と連携した講座等)</p> <p>【活動指標】1年次の「産業社会と人間」で、地域と連携した学びの機会を年2回以上設ける。2年次では、地域の企業を中心にキャリアインターンシップを実施する。</p> <p>【成果指標】「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」が果たしたと答える生徒の割合を、それぞれの力について85%以上とする。</p>	<p>1年次:車座トーク、キャンパス・インターンシップ、フィールドワーク、かけ算プロジェクトを実施</p> <p>2年次:企業見学会、インターンシップを実施</p> <p>4つの力への到達満足度(あてはまる・ややあてはまるの合計)</p> <p>「対話力」89.1% <input checked="" type="checkbox"/>達成 「追究力」83.2% <input type="checkbox"/>未達成 「創造力」88.0% <input checked="" type="checkbox"/>達成 「発信力」78.8% <input type="checkbox"/>未達成</p>	◎
人権教育の充実	<p>(1)人権LHR等において、教職員も含めた意見交換のできる学習を取り入れていく。自他の考えを尊重し、多様性を認めあい、お互いを思いやることのできる仲間づくりを行う中で、生命の尊厳を理解できる人権学習を進める。</p> <p>【活動指標】人権講演会・性教育講演会をそれぞれ年1回以上実施する。</p> <p>【成果指標】人権を大切にできた生徒の割合を、90%以上とする。</p>	<p>11月人権講演会実施 12月性教育講演会実施</p> <p>人権を大切にできた生徒の割合 93.1% <input checked="" type="checkbox"/>達成</p>	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用は、教員の授業スタイル等により差があるため、推進に向けて研修を実施する必要がある。 ・「学びの基礎断絶」を生徒の意欲向上に結び付ける工夫が必要である。 ・長期休業明けに昼夜逆転している等、一部の生徒で基本的な生活習慣の改善が必要である。 ・いじめ重大事態の発生があり、「学校いじめ防止基本方針」の改定と「発生時のフローチャート」の作成を実施した。今後も引き続き、心の教育の充実を図り、未然防止に努める。 ・「地域を学び場とした探究活動」は計画通りに実施ができたが、より一層内容の充実を図る必要がある。 ・他者を思いやる行動ができなかった生徒には、今後も繰り返し啓発を実施していきたい。 			

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)生徒の意欲向上、学力向上のために、公開授業や授業改善等に係る教職員研修を実施する。 【活動指標】公開授業年2回以上実施 教職員研修年2回以上実施(ICT活用研修を含む) (2)学びの基礎診断のデータを活用し、3年間を見通して学力向上の取組を推進する。	5月及び9、10月授業公開実施 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 7月、9月、11月教職員研修会を実施 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 (ICT活用研修は計画中)	◎
キャリア教育の充実	(1)就職実現コーディネーターや若者サポートステーションと連携し、早期からの進路実現に向けた支援、求人開拓、職場定着に向けた取組を推進する。 【活動指標】求人依頼や卒業生の就業状況確認のための職場訪問を年2回以上行う。 (2)3年間の進学指導計画の整備を進める。	職場訪問 5回実施 <input checked="" type="checkbox"/> 達成	※
働きやすい職場環境づくり	(1)チームとして仕事に取り組む体制づくりを進め、総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 ○定時退校 Day を月1回設定し、設定した日の定時に退校できた教職員の割合 95%以上 ○部活動休養日を週1日以上設定し、予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100% ○放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 70%以上 【成果指標】 ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ○1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上	【12月現在】 98.6% <input checked="" type="checkbox"/> 達成 100% <input checked="" type="checkbox"/> 達成 67.3% <input type="checkbox"/> 未達成 3人 <input type="checkbox"/> 未達成 20人 <input type="checkbox"/> 未達成 19.33時間 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 12日5時間 <input type="checkbox"/> 未達成	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修は、防災・減災、探究学習、人権教育で実施したが、講師や内容を吟味してより効果的なものにする必要がある。 ・教務部による「授業改善のための満足度調査」を実施したため、この結果を利用して教員の意識向上を図っていく。 ・学びの基礎診断のデータの効果的な活用について、学年・進路指導部を中心に取組を再構築する。 ・3年間を見通したキャリア教育の体系を「見える化」して整備する。 			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・保護者アンケート結果から、生徒と教員の関係性が近いことは強みでもあるが、社会に出る際には切り替えができる必要がある。家庭内コミュニケーションがとれていない場合もあるが、学校と保護者が連携して生徒を支援する体制を構築するべ
---------------------	---

	<p>きである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やバス待ちの整列など社会常識は生徒に浸透している。「いいなんゼミ」をはじめとする発信力を地域で共有し、更なる魅力発信に努めて欲しい。 ・卒業後の離職率は少ないようだが、AI に取って代わられない人材育成の観点からもキャリア教育の充実をより一層進める必要がある。
--	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>自己肯定感を高める教育の充実をより一層図っていく。学習面ではICT の利活用やモチベーションアップに繋がる取組を進め、個別最適な学びを追究していきたい。また、生徒の安全・安心な学校生活を守るため、いじめは絶対に許さない思いを全教職員が共有し、人権教育や道徳教育を更に推進させる。3年間を見通したキャリア教育を進めることで、進路保障の満足度を更に高めていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保に努め、風通しのよい職場となるよう努める。生徒に還元できる教職員研修を企画し、授業改善や自己肯定感を高める実践に取り組む教職員を育成する。Teams 機能を最大限に活用し、連絡は密にしながらも会議時間の短縮や休暇の取得率向上に繋げ、職員がやりがいを持って働ける職場づくりをより一層進める。</p>